



Cambridge International Examinations
Cambridge International General Certificate of Secondary Education

FIRST LANGUAGE JAPANESE

0507/02

Paper 2 Reading and Directed Writing

May/June 2014

2 hours 15 minutes

Candidates answer on the enclosed Answer Booklet.

No Additional Materials are required.

READ THESE INSTRUCTIONS FIRST

Write your Centre number, candidate number and name on all the work you hand in.

Write in dark blue or black pen.

Do not use staples, paper clips, glue or correction fluid.

DO NOT WRITE IN ANY BARCODESAnswer **all** questions.

At the end of the examination, fasten all your work securely together.

The number of marks is given in brackets [] at the end of each question or part question.

受験生への諸注意

全ての提出物（解答用紙、その他）に、センター番号・受験番号・氏名を記入しなさい。
黒または濃い青色のペンを必ず使用すること。
ホッチキス（ステープラー）やペーパークリップ、のり、および修正ペンなどの使用禁止。
バーコードには、一切何も書かないこと。

すべての問題に答えなさい。

試験終了時には全ての提出物をまとめ、必要によっては配布されたひもなどでくくりなさい。
配点は各設問の最後にある [] 内に示されています。

This document consists of 7 printed pages, 1 blank page and 1 inserted Answer Booklet.

パート1

次の【A】と【B】は、日本企業の英語の社内公用語化に関する記事です。二つの文章を読んだ後の問1と問2に答えなさい。

【A】 日本企業の英語社内公用語化

Content removed due to copyright restrictions.

【B】ここ日本で...ホンダ社長、英語公用語化を「バカな話」と一蹴

「日本人が集まるここ日本で、英語を使おうなんてバカな話だ」。ホンダの伊東孝紳社長（56）は、20日の記者会見で「グローバル企業として英語を社内の公用語にすべきでは」との質問に対して、こう切り返し、その可能性を一蹴。相次いで英語を公用語化する企業が出てきたことを牽制した。

国内企業ではインターネット通販大手の楽天が先月、2012年中に社内で英語を公用語とする方針を打ち出した。また、ユニクロを展開するファーストリテイリングも、海外事業の大幅強化戦略を打ち出す中、外国人社員を交えた会議や海外店への文書を原則的に12年3月から英語に統一する予定だ。

ホンダと同じ自動車業界では、仏ルノーと資本提携している日産自動車が、役員会などで英語を使用している。カルロス・ゴーン社長（56）を含む取締役の多数が外国人である為だ。しかし、書類は日本語と英語の併記となっている。

米国の研究所の副社長を務めるなど海外経験もある伊東社長は、「グローバル展開の中で英語が必要なやりとりなら英語でやる。時と場合によって使い分ければいい」と、切り捨てた。

英語のできないサラリーマンにとって、公用語化への動きは大きな「脅威」となっている。そんな中、20カ国以上で事業を展開するグローバル企業、ホンダの社長が「英語公用語化無用」を発言したことに対し、「いいことを言ってくれた」とサラリーマンの多くが胸をなで下ろしている。

だが、ホンダの社内では、社長のいわんとすることを「日本では、日本語を使うのが効率の面でいい。しかし、海外では英語を使うのは当たり前だ」と理解している。事実、歴代のホンダ社長は英語が堪能であり、会社の方針から会見などでは通訳を介している伊東社長も、スムーズに外国人記者とやりとりできる。

創業者の本田宗一郎氏も、独学の英語ながら、外国人とのコミュニケーションに困らないどころか、むしろ心のこもったやりとりができると好評だったという。

公用語化への議論はあるものの、英語がビジネスマンの必須項目になるのは、どうやら自然の流れのようだ。



問1【A】と【B】の記事を読んで、それぞれに描かれた「英語の社内公用語化」に対する考え方について、共通点や相違点を踏まえながら、主要な点を400字程度で要約しなさい。その際、ら表現を直接抜き出すのではなく、なるべく自分の言葉を使って書きなさい。

[20]

問2【A】もしくは【B】の記事に関するあなたの考えを新聞の読者投稿欄に送るため、300字程度で書きなさい。その際、記事の登場人物の言動に対するあなたの意見を述べ、例を挙げながらその理由を説明し、問題解決への具体的な提案をしなさい。

[20]

パート2

問 次の 3~7 の空欄 () に下のア~エの中から最も適切な答えを一つ選んで、記号を記入しなさい。

3 雨が降って来ましたね。この傘で ()、使ってください。

- | | | | |
|---|------|---|------|
| ア | よさそう | イ | よければ |
| ウ | よかった | エ | よろしく |

[1]

4 「失礼します。社長、林先生が () になりました。」

- | | | | |
|---|-----|---|--------|
| ア | 参り | イ | いらっしゃい |
| ウ | お見え | エ | 伺い |

[1]

5 説明書に書いてある () したのに、うまくいかない。

- | | | | |
|---|-----|---|------|
| ア | ままで | イ | ような |
| ウ | そうな | エ | とおりに |

[1]

6 私はここ数年、健康のために毎朝、歩いて通勤することに ()。

- | | | | |
|---|-----|---|------|
| ア | なる | イ | した |
| ウ | なった | エ | している |

[1]

7 8才の子供が大人の () 話し方をするので、少し驚きました。

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ア | みたい | イ | ような |
| ウ | らしい | エ | ふうな |

[1]

問 次の 8~12 の空欄 () に下のア~エの中から最も適切な答えを一つ選ん
えなさい。

8 健康を保つには、やはり () な運動が効果的です。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 頻度 | イ | 適度 |
| ウ | 高度 | エ | 鮮度 |

[1]

9 就職の面接では、最初の印象が () だそうです。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 肝心 | イ | 無心 |
| ウ | 一心 | エ | 本心 |

[1]

10 若いうちに、読書や音楽、美術鑑賞を通じて () を養うのがよいでしょう。

- | | | | |
|---|-----|---|-----|
| ア | 柔軟性 | イ | 感受性 |
| ウ | 精神性 | エ | 信頼性 |

[1]

11 父はサラリーマンだったが、35歳の時、 () してレストランの経営者になった。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 独特 | イ | 独立 |
| ウ | 独善 | エ | 独身 |

[1]

12 彼女は、両親から父親の跡をついで医者になるよう、 () されていたらしい。

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ア | 予備 | イ | 待機 |
| ウ | 期待 | エ | 装備 |

[1]



問 次の 13~17 の下線で示されたそれぞれの言葉と同じ意味を持つ表現を一つ、各文に
 適する文法の形で書きなさい。(例：これで安心だ→これで大丈夫だ)

- 13 この魚は活きがいいから、刺身に使えるね。
- 14 念願の金メダルを手にした彼は、感慨無量で言葉につまった。
- 15 問題解決にあたって、まず、根本的な原因について考えなくてはいけない。
- 16 弟は中学生だが背伸びして、まだ似合わないダークスーツなどを着たがる。
- 17 何か言いたい事がある時は、単刀直入に言った方がよい。

[5]

問 次の 18~22 の下線の単語の品詞名を下から選んで記号で答えなさい。

18この鳥は、19赤い羽が美しく、きれいな声で20鳴くので有名だ。21しかし、22めったに見られない。

ア 形容動詞	イ 副詞	ウ 助詞	エ 接続詞
オ 助動詞	カ 代名詞	キ 形容詞	ク 名詞
ケ 連体詞	コ 動詞	サ 感動詞	シ 数詞

[5]



Copyright Acknowledgements:

Passage A © ADAPTED: Kyoko Hasegaw; <http://www.afpbb.com/article/economy/2776895/6525335>; 28 November 2010.

Passage B © ADAPTED: Editorial Sankei; <http://www.sankeibiz.jp/business/news/100723/bsg1007231827005-n1.htm>; 23 July 2010.

Permission to reproduce items where third-party owned material protected by copyright is included has been sought and cleared where possible. Every reasonable effort has been made by the publisher (UCLES) to trace copyright holders, but if any items requiring clearance have unwittingly been included, the publisher will be pleased to make amends at the earliest possible opportunity.

Cambridge International Examinations is part of the Cambridge Assessment Group. Cambridge Assessment is the brand name of University of Cambridge Local Examinations Syndicate (UCLES), which is itself a department of the University of Cambridge.

© UCLES 2014